



経済教育ネットワーク

Network for Economic Education



札幌部会(第30回)

日時:	2022年6月4日(土) 15:00 - 17:00
場所:	キャリアバンクセミナールーム + Zoom を活用したハイブリッド形式
参加者:	会場8名(野間・兼間・川瀬・奈良・竹内・中村・飯高・山崎) + Zoom11名の19名参加

【内容要旨】

1. 山崎辰也(北見北斗高)より、「地方自治に関する『ケ(日常)の授業』」というテーマで、地方自治に関する授業プリントと演習問題を提示し、授業での提示資料とそれを基にした授業の切り口に関する実践報告を行った。内容は、身近な地域の昭和40年代と現行の新旧地形図を使ってまちづくりの特徴を考察するとともに、市町村合併に伴う市町村数の推移のグラフと、歳入に占める地方税と地方交付税の統計から、合併特例債の発行に至る流れを理解することである。

議論の中心となったのは、経済学者と中高教員の連携の在り方であり、6月のメルマガで新井明先生から紹介のあった歴史学研究会『歴史総合をつむぐ』の本でも取扱われているように、教科内容に精通している大学の専門研究者の提示する資料と切り口を活用して授業づくりができないかということである。例えば、教科書では地方の身近な事例は取り扱われないが、沖縄や北海道のことなどを深く学ばせるのであれば、結局のところ教育方法よりも、教科内容としての提示資料と切り口が重要となり、このことを専門に研究している大学の研究者の助けがあると、より充実した学びになると思われる。今後の継続研究課題としたい。そのほかの議論では、(1)民間の入ってこないところに公共施設をつくる傾向があり、歴史のある地域では人権上の問題につながったりする恐れがあるので配慮する必要があること、(2)「東急撤退→人口減→インフラ整備」の問題に気づかせられる資料があると良いということ、(3)持続可能という視点での学びで構築していくのも1つではないか、といったコメントがあった。

2. 兼間昌智先生(札幌大)より、「大学生がみたロシアのウクライナ侵攻」というテーマで、大学での「日本語リテラシー」の講義で行ったパラグラフ・ライティングに関する実践報告が行われた。内容は、文章の構成要素や、引用の仕方、参考文献の挙げ方などの指導を行った上で、ロシアのウクライナ侵攻に関する新聞記事を基にレポートに取り組みさせた実践例の紹介である。

報告後の議論では、(1)このようなレポート課題では教師に付度して教師の求める答えを出そうとする傾向があること、(2)学生のコメントを対比させて深める方法もあること、などのコメントがあった。また、野間敏克先生からは同志社大学での同様なアプローチが紹介され、学生の特徴として書ける学生は高校のときにしっかり小論文を習っていて、そうでない学生は主述がしっかりしていないなど逆に教えがいがあることが報告された。

[文責:山崎辰也]

チェックボタン

<input checked="" type="checkbox"/> テスト問題 (新テストなど)	<input type="checkbox"/> 中学	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 指導案	<input checked="" type="checkbox"/> 新聞教材(NIE)
---	-----------------------------	--	---	---

次回開催予定: 2022年10月8日(土)15:00~17:00 キャリアバンクセミナールームとZoomのハイブリッド形式
議題 北海道の地域教材、経済に関する授業案の交流など